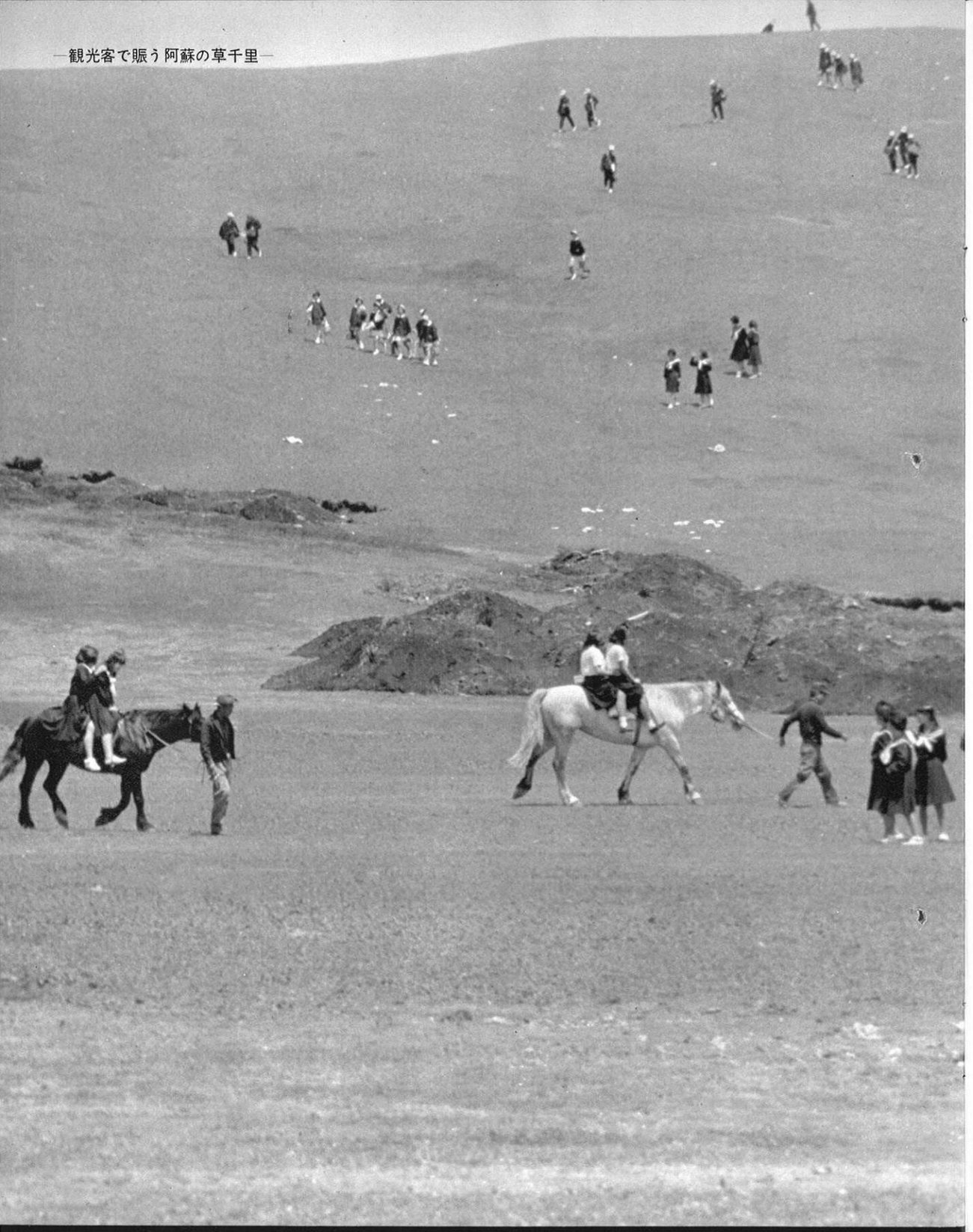


—観光客で賑う阿蘇の草千里—

—グラビヤ特集—

観光の熊本へ

宿泊、観光施設を充実

—快適安全な滞在のために—

九州観光の中枢として本県を訪れる観光客は年々増加することが予想されますが、これら観光客の滞留性を確保することが、観光産業のため極めて重要な課題となっています。

したがって、観光旅行ホテルをはじめ観光施設の収容力、設備の充実とともに外人、団体、修学旅行といった観光客層と、観光地に結びついた特色ある経営体制の促進、接遇の向上など、新しい国民観光に即応した観光客受入態制を確立しなければなりません。

□国際観光地における外人観光客の宿泊に適する政府登録旅館、ホテルの整備充実。

□職場団体旅行に即応した一〇〇人以上収容の観光旅館、ホテル施設基準への整備指導と助成。

□観光旅館、ホテルの整備を促進するため日本開発銀行、中小企業金融公庫、商工組合中央金庫等政府資金、その他金融機関の融資あっ旋の実施。

□観光旅館、ホテル、観光施設の経営者および従業員に対する経営および接遇研修の実施。

□観光地の特性に結びついた観光旅館、ホテル、観光施設の特色ある経営の指導。

力を注ぐ観光PR

—県外客一五〇〇万人をめざして—

観光客誘致の宣伝活動は、観光熊本の特色ある観光資源を高度に生かし、正しく具体的に、広域化を目的として理想的な施策を展開する必要がある。

そのため、全国的な観光市場の推移、観光客の流動、県内観光施設の整備状況等を適確に把握し、観光地市町村、交通団体、観光関係事業団体との緊密な連けいをはかり、観光地、観光ルートを一本化した具体的な宣伝活動を推進します。

□観光旅行のための具体的かつ、詳細な案内を重点とした県内観光地、観光施設、文化財、観光土産品、経費、日程、観光コース等を紹介した印刷物の作成配布。

□九州合同による東京大阪を中心とした広域市場における観光展、観光懇談会、県単独による巡回宣伝の実施。

□カラーコルトン、写真パネルによる、国鉄主要駅、交通案内所等の展示と観光映画の活用。

□学生、青少年、職場、家族、修学旅行、外人観光客、旅行あっせん業者等、観光対象別による適確な宣伝方式の実施。

□観光宣伝媒体としてマスコミ、映画、テレビ、出版物等の効果的利用、国内、国外の有望な観光市場のワッペンツアー等による観光交流の実施。

□大阪で開催される万国博覧会における、外人観光客誘致組織に即応して、本県受け入れのための写真宣伝の実施。

□県内観光道路の組織強化による具体的なハードサービスの実施。

□九州地方観光協議会、九州横断国際観光ルート協議会、南九州観光ルート協議会等との合同宣伝の強化、および国際振興会海外事務所等との合同宣伝による海外宣伝の実施。

（観光課）

よこがお

広域化する城北観光

県北観光協議会も発足

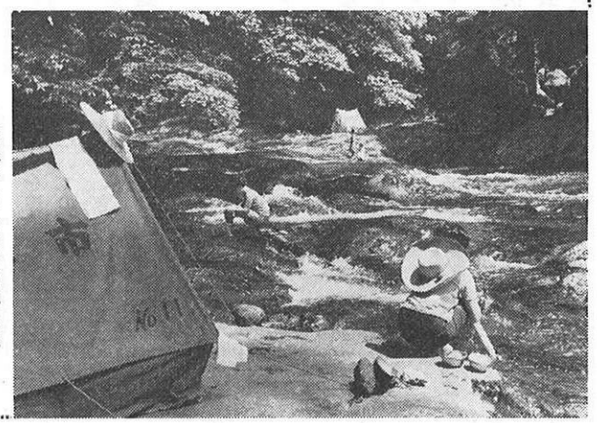
点から線、線から面へ——。現在の観光は広域観光の時代だ。城北地域では、既に四十年度から、玉名、山鹿、菊池、菊水、長洲、鹿北、鹿央、植木の三市五町、それに有明自動車航送船組合の九者で県北観光協議会が発足。入込客の多い北九州方面への観光キャラバンをはじめ、リーフレットを各県の各種団体や企業、教育委員会などに配布するなど、観光客の誘致へ、積極的な共同事業を進めている。

こうした動きとならんで、今後、城北の広域観光の基礎になるのは、新しい観光コースづくりと、観光資源の開発だ。その主軸として期待されているのが、阿蘇スカイラインを含む城北開発横断道路である。この道路が完成すれば、阿蘇スカイラインで阿蘇地域との結びつきを強めると同時に、菊池渓谷、菊池、山鹿、玉名の温泉郷を結んで、長洲からフェリーボートで雲仙、長崎へと、陸と海をつなぐ変化のある観光ルートが開けるわけだ。同時に、阿蘇外輪山、菊池渓谷などの観光資源も開発されるだろう。さらに九州縦貫高速自動車道、鹿児島本線の電化複線化の完成ともあいまって、北九州、あるいは熊本市地域への結びつきも高まるわけで、城北観光の将来は期待十分なものがあるといえよう。

こういった観光ルートの整備に遅れぬよう城北各市町村が、それぞれの特色を生かしながら、広域の菊池川流域温泉郷としての観光地づくりも、今後の課題の一つといえるようだ。

例えば田原坂の開発もその一つ。つわものどもの夢の跡を残す田原坂も、現在は訪れる人も少ない。ここを観光ルートに乗せることも、明治百年を来年にひかえて、是非実現させたいことの一つだ。

このほか城北に数多い古墳群、あるいは石炭産業と結びつけた観光など、城北ならではの特徴のある観光開発の余地はまだまだ残されているようだ。



—涼味ひとしおの菊池水源—